

遠視性乱視から強度近視性乱視まで幅広い乱視症例に  
満足度の高い視力矯正を実現する

# アイミーソフトⅡ・トーリック

[販売名 アイミーソフトⅡ]  
[承認番号 20500BZY00640A01]

## プロダクトガイド(トライアルレンズC-0.50D $\times$ 180°を用いた処方)

### 素材

2-HEMAと特殊モノマーを配合した共重合体からなる  
含水率38%のソフトコンタクトレンズ

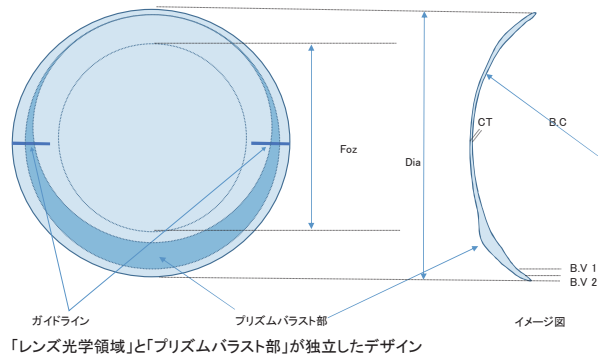
グループ名	グループ I
構成モノマー	2-ヒドロキシエチルメタクリレート エチレングリコールジメタクリレート
着色剤	フタロシアニン系着色剤

### 基本物性

物性	物性値
含水率	38%
DK値	$12 \times 10^{-11} (\text{cm}^3 (\text{STP}) \text{O}_2 / \text{cm}^2 \cdot \text{S} \cdot \text{mmHg})$
視感透過率	93 $\pm$ 2%以上

### レンズデザイン フロントトーリック プリズムバラスト

BC8.60 / 直径 14.2 / S-3.00D C-0.75D $\times$ 180°の場合  
(中心厚 ct=0.09mm)



### 製作範囲

	ベースカーブ (mm)	直径 (mm)	球面度数 (D)※	円柱度数 (D)※	円柱軸 (°)
アイミーソフトⅡ・トーリック (ブルー)	8.30 , 8.60 , 8.90	14.2	+5.00~-10.00 (0.25step) -10.50~-20.00 (0.50step)	-0.50~-6.00 (0.25step)	5~180 (5step)

※球面度数と円柱度数の組合せが-25.00Dを超える場合は、製作不可になります。  
(例 ①S-19.50D C-5.75D or C-6.00D, ②S-20.00D C-5.25D~-6.00Dの場合)

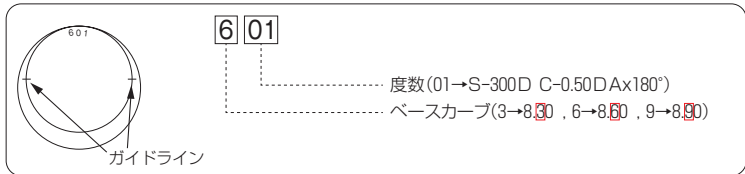
# 処方フローチャート

## トライアルレンズ

トライアルレンズ規格	
ベースカーブ (mm)	8.60
球面度数 (D)	-3.00
円柱度数 (D)	-0.50
円柱軸 (°)	180
直径 (mm)	14.2

### トライアルレンズ刻印

トライアルレンズには規格を表す刻印があります。  
刻印は凸面から見た時、図のように見えます。



### ① 問診・前眼部検査

### ② 屈折検査・角膜曲率半径の測定

- 他覚的屈折検査
- 自覚的屈折検査
- 角膜曲率半径の測定

球面度数  
円柱度数

2018			
VD=12.00mm	S	C	A
<R>	< -4.25	< -1.75	< 178 >
	mm	D	deg
<R1	7.83	43.10	180 >
<R2	7.51	44.94	90 >
<AVE	7.67	44.00	
<CYL		-1.84	180 >

中間値

### ③ トライアルレンズの選択

- ファーストトライアル ベースカーブ 8.60 (mm)
- ※トライアルレンズ規格は、BC8.60/直径14.2/S-3.00D C-0.50D Ax180° になります。



### ④ フィッティング検査

- トライアルレンズ装着後、涙の落ち着きを確認してからフィッティング検査を行ってください。
- レンズのセンタリング・レンズの動き・ガイドライン位置を確認してください。  
[処方交換アドバイス ④レンズセンタリングの確認]を参照。(数回、瞬目させた状態でレンズの安定を確認してください。)

### ⑤ 追加矯正検査…自覚的屈折検査の円柱軸がAx180°±10°の場合

- トライアルレンズの上からオートレフラクトメーターで測定した値を、追加矯正検査の目安にすることができます。  
(レンズ形状の影響から、屈折検査で求めた円柱度数より弱めになることがあります。)
- 球面度数・円柱度数・円柱軸の検査
- 1. 球面度数/追加球面度数がS±3.75D以上は、角膜頂点間距離補正を行い、トライアルレンズ度数に加えます。
- 2. 円柱度数/追加円柱度数を「円柱度数早見表」または「アイミーソフトII・トーリック追加矯正補正表」を参考に決定してください。
- 3. 円柱軸/トライアルレンズのガイドライン安定位置が水平方向を基準に±20°以内の時は軸調整が適応になります。  
[処方交換アドバイス ④レンズセンタリングの確認]を参照。

※自覚的屈折検査の円柱軸がAx180°±10°以外の追加矯正について  
自覚的屈折検査の円柱軸とトライアルレンズの円柱軸に大きな開きがある場合は、「トライアル度数 C-0.50D Ax180°」が追加矯正に適さないことがあります。  
その場合は、「トライアルレンズ度数をC±0Dの状態にする方法」※を行い、その上からさらに「通常の追加矯正」をしてください。  
その追加矯正した「球面度数」、「円柱度数」を「アイミーソフトII・トーリック追加矯正補正表(トライアルレンズ度数 C±0Dの状態)」を用いて換算し、トライアルレンズの度数に加えて「処方レンズ度数」を決定してください。  
※「トライアルレンズ度数をC±0Dの状態にする方法」とは、  
「トライアルレンズ度数 C-0.50D Ax180°」のときは、検眼レンズ「C+0.50D」を用いて「円柱軸」を「トライアルガイドライン軸」に一致させることでトライアルレンズ円柱度数の屈折状態が「C±0D」になります。

#### ■円柱度数早見表…自覚的屈折検査の円柱軸がAx180°±10°の場合

追加円柱度数	±0.00	-0.25	-0.50	-0.75	-1.00	-1.25	-1.50	-1.75	-2.00	-2.25
処方円柱度数	-0.50	-0.75	-0.75	-1.00	-1.25	-1.50	-1.50	-1.75	-2.00	-2.25
追加円柱度数	-2.50	-2.75	-3.00	-3.50	-4.00	-4.50	-5.00	-5.50	-6.00	-6.50
処方円柱度数	-2.50	-2.75	-3.00	-3.25	-3.75	-4.00	-4.50	-5.00	-5.50	-6.00

トライアルレンズ 8.60/S-3.00D C-0.50D Ax180°/14.2

R.V = ( 1.2 × トライアルレンズ C S-1.00D C-1.00D Ax180°)

追加球面度数	トライアルレンズ度数に加える値	追加円柱度数	円柱軸	
±3.75D以上	±3.75D未満	円柱度数早見表の確認	円柱軸 (10°単位)	5°の端数
角膜頂点間距離補正值	そのまま		そのまま	R→切り捨て L→切り上げ

### ⑥ 処方レンズ決定

製作範囲表を確認し、処方決定します。

ベースカーブ (mm)	直径 (mm)	球面度数 (D)	円柱度数 (D)	円柱軸 (°)
8.60	14.2	-4.00	-1.25	180

## 処方交換アドバイス（処方レンズによる視力不良）

### A 球面度数の確認

- 球面度数±0.25D、±0.50Dの追加矯正にて調整。

### B ガイドライン傾斜の確認

- ①ガイドラインの傾きがあっても、視力に問題がなければ円柱軸調整の必要はありません。
- ②±20°を越えて傾斜している場合はトライアルレンズでのベースカーブの見直しが必要となります。
- ③円柱度数が強い場合は、わずかなレンズの回転でも視力不良につながる場合があります。

#### ■円柱軸調整早見表

処方レンズのガイドラインが傾斜した場合は、下表を参考に円柱軸の調整を行ってください。

ガイドラインの傾斜方向						
		時計回り	時計回り	安定	反時計回り	反時計回り
		+20°	+10°	±0°	-10°	-20°
処方レンズの円柱軸		調整後の処方円柱軸				
直乱視	20°	40°	30°	調整不要	10°	180°
	10°	30°	20°		180°	170°
	180°	20°	10°		170°	160°
	170°	10°	180°		160°	150°
	160°	180°	170°		150°	140°
倒乱視	70°	90°	80°		60°	50°
	80°	100°	90°		70°	60°
	90°	110°	100°		80°	70°
	100°	120°	110°		90°	80°
	110°	130°	120°		100°	90°

※処方交換前後でガイドラインの傾斜が一致すれば、円柱軸は調整されたことになります。  
 （ガイドラインはレンズの安定を確認するための指標で、円柱軸とは関係ありません。）

### C 円柱度数・円柱軸の確認

- ガイドラインが水平方向に安定していて視力不良の場合は、処方度数変更の必要性が予測されます。

### D レンズセンタリングの確認

- アレルギー疾患等があるとレンズが汚れ、上眼瞼でレンズが上方安定し、視力不良につながる場合があります。

フィッティング	センタリング	動き		ガイドラインの傾斜方向	変更方法
		正面視	上方視		
良好（適応）	角膜がじゅうぶんに覆われ、センタリングが良い。	0.5~ 1.0mm	1.0~ 1.5mm	 水平  水平方向を基準に±20°以内	円柱軸調整可能
スティープorタイト（非適応）	中央で張り付き動かない。 （球結膜への圧迫の確認）	0.5mm 以下	1.0mm 以下	 20°以上 水平方向を基準に±20°を超える場合	ベースカーブを大きく
フラットorルーズ（非適応）	偏位して安定位置が定まらない。 （4時、8時方向のレンズエッジの浮き上がりの確認）	大きく 動く	1.5mm 以上ズレ	 回転 レンズが回転し、ガイドラインが一定に定まらない。	ベースカーブを小さく

## レンズケア

このレンズには、化学処理による洗浄・消毒が必要です。レンズケアは、レンズの性能を維持し安全で快適な装用を続けるために欠くことができないものです。レンズの性能をじゅうぶん発揮するためにも正しい取り扱い方法を指導してください。

\*ケア用品の取り扱いに際しては、使用するケア用品の使用説明書および表示事項を必ず読むように指導してください。

## 定期検査

安全で快適な装用感を続けるために、調子良く装用していても定期検査を受けるように指導してください。

## 処方に際して注意していただきたいこと

### ◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。

コンタクトレンズは、眼に直接のせて使用する高度管理医療機器です。取り扱い方法やケア方法を誤ると重篤な眼障害につながる場合があります。患者には、正しい取り扱い方法と定期検査の必要性を説明してください。

### ◎添付文書もあわせてお読みいただきますよう、お願いいたします。

※バイアル瓶の開封時にアルミキャップで手指を切らないように充分注意してください。

※バイアル瓶のアルミキャップが途中で切れて開封できないときは、無理に開けようとしないようにご指導ください。

